

令和7年度 第1回地域連携推進会議

日時 令和7年8月1日(金) 10:00~12:00

場所 よるべ沼代 さくら館2階

出席者 星野理事長 東海施設長 高橋室長 加賀美課長 K藤様 K池様 O澤様 I田様 U原様
書記 柳澤

星野理事長より挨拶

- ・法人の概要と開設から現在に至るまでの歴史について、出席者の方に説明を行っている。
- ・以前の夏祭りは、よるべ沼代に地域の方をお招きして一緒に楽しむことができていたが、わらべの杜が開所してからはお祭りの会場も変わり少し疎遠になってしまっていた。今回の会議を契機によるべ沼代と地域との繋がりをもう一度強めるために、様々なご意見を頂きたいと考えています。

1 自己紹介。

たちばなの里 K藤施設長：会議を通じて同じ地域で手を取り合って協力をしていきたい。

ゆりかご園 K池園長：入所施設で共通していることもある人権擁護などについて共有。勉強していきたい
保護者代表 I田さん 保護者代表として出席させていただきます。

地域代表 O澤さん わらべの杜を開所する前から関りがあり、自宅も近いため縁があると思っている。

地域支援室 高橋室長 オブザーバーとして出席。GHでも会議を主催するため進め方を勉強していきたい。

地域支援室 加賀美課長 勉強させていただきます。

利用者代表 U原さん よろしくお願い致します。

2 地域連携推進会議について

○東海施設長より会議の概要について資料を沿って説明

- ・推進員の方々との交流の機会を学びと気づきの機会として、より開放的な施設運営のために、皆さんのお力添えを頂きたいと考えています。
- ・第2回目の会議では施設内見学を予定しており、資料の見学時の確認ポイントを参照しながら、職員や利用者との交流の中から様々な視点でご意見を頂きたいと考えています。
- ・推進員の訪問が地域と関わる貴重な機会となり、第三者からの助言や意見はサービスの向上にも繋がります。また定期的な訪問により、前回とは違う視点での様々な気づきがあると思います。
- ・利用者とのコミュニケーションでは、第三者の視点から職員では気づかない事柄について着目して頂ければと考えています。普段話をしている職員ではなく、第三者の推進員が話を聞くことで違う一面が見えてきます。
- ・利用者に対する権利擁護についても重要視しています。職員への過度な業務負担が虐待や身体拘等に繋がらないよう、業務のスリム化と働きやすい環境の実現を進めています。職員が利用者と関わる時間を増やすことで支援の質を向上させることも目的としています。
- ・要綱(任期)の説明。
任期は2年だができるだけ長く続けていただきたい。
報酬については今後見直す可能性もあります。

3 障害者支援施設「よるべ会」概要説明

○理事長より冒頭にお話しがあったため、東海施設長より補足的な内容を説明

- ・入所施設は男性に多い傾向が見られ、男性の多動に保護者が対応できない傾向が多い印象。
- ・入所者の平均年齢は53歳。高齢化に伴い転倒などが増えている。歩難者も多く車椅子も増えている。
- ・遊心班：施設内での機能訓練や創作活動を中心に作業を行なっています。
- ・楽働班：受注作業や寮内の清掃の他に、公園清掃や玉ねぎに収穫作業など地域に出て活動する機会が多い。

4 よるべ沼代事業計画について。

○東海施設長より令和7年度の生活科事業計画書について資料に沿って説明。

- ・身体機能の低下は定期的にOTが来所してプログラムを作り実施。感染症対策（コロナ）にも力を入れています。年間計画には記載していないが定期的なドライブなども行っている。
- ・苦情解決窓口は柳澤課長補佐・中村寮主任 責任者は東海施設長が担当しています。JSY ネットを第3者委員として設置。KW は地域連携推進会議とは違う視点での実施となっています。
- ・施設内には身体拘束（施設対応）を行っている利用者もいる。虐待防止。身体拘束適正化委員会も設置し、身体拘束の緩和にも取り組んでいる。また、今日から平日に限り門のナンバーロックを解除している。
- ・BCP の発動を想定して定期的な避難訓練なども行っている。
- ・ISO を過去に取得していたが現在は第3者委員に切り替えている。PDCA サイクルは継続している。
- ・人材確保も課題となっており、SNS に活用など違ったアプローチも考えている。

5 今後の会議の開催

- ・令和8年2月6日（金）11：00～13：00 寮内見学を予定。
- ・昼食を食堂で利用者の皆さんと一緒に摂っていただく方針。

6 意見交換

① B C P の取り組みについて

○たちばなの里 K 藤施設長

- ・本日の会議の話を伺って問題点や関心事は同じだと感じた。情報共有を行っていきたいと考えている。
- ・（先日の津波警報を踏まえ）災害時の避難については、安全な場所に移動させることが大事だと考えているが、入所者の介護度が高く施設内もユニット対応ため移動が大変。
- ・情報共有や連絡手段としてインカムを活用して連携を図っているが課題もある。職員側の意識改革や理解も必要。いまは過渡期で浸透するまでには時間を要する。
- ・いかに効率を良くして利用者のサービスの質を高めるかが大事。

○ゆりかご園 K 池園長

- ・隔月で、火災と地震の避難訓練を実施しており、学校や関係機関とも連携している。

○地域代表 O 澤さん

- ・津波の心配はないが崖崩れは心配。地域的に場所によっては地盤の弱い場所がある。岩盤の上に土が乗っているため地滑りが起こりやすい。

② 入所施設の印象について

○地域代表 O 澤さん

- ・なんとなく閉ざされた印象。用事もないので積極的に行こうとは思わない。わらべの杜開設時は地元から反対があるか心配しており当時の副市長からも連絡があったが、特に反対意見などもなかった。地元の人も夏祭りには積極的に参加している。

○保護者代表 I田さん

- ・子供に障害があるので関りはあるが、それ以前は触れてはいけない場所、関りがない場所という印象。

③ 閉鎖的な印象の入所施設に対する改善策

○地域代表 O澤さん

- ・夏祭りが好事例。イベントなどを開催して地域の人を招待したら印象が変わるかもしれない。
- ・よるべ沼代まで行くのが大変。民生委員時代も1度も沼代に来たことはなかった。

④ イベントの開催と感染症対策、地域との交流について

○たちばなの里 K藤施設長

- ・コロナの前は秋祭りが一大イベントで、地域やボランティアの方も手伝いに来ていたが、コロナ以降は縮小してしまい昔の通りとはいなくなった。
- ・現在は施設内で利用者と職員のみで秋祭りを再開し、昨年からご家族を呼べるようになったが、開催日を分け家族の飲食を禁止するなど感染症対策をしっかりと行っている。今年も予定でボランティア受け入れなども少しずつ戻していきたいと考えている。
- ・コロナ症状の軽微になり症状が現れない人もいるので、感染症対策を徹底しているが防ぎきれないこともある。安全対策を万全にするため、職員の家族が罹患した際に10日間休ませたこともある（働く側が不安に思わないように、人が少なくても感染症対策を徹底した方が良いという意見が現場からあった）。

○ゆりかご園 K池園長

- ・コロナでボランティアの受け入れがなくなり、再開しても元通りにはならない
- ・入所施設を地域に開放するなど、よるべ沼代は先駆的に地域に出る役割を担ってきたと思う。

○東海施設長

- ・祭り・イベントも良いが防災も地域とのつながりを強くする方法の一つだと考えている。
- ・下中小学校が避難所だが、沼代まで来られれば避難所として開放しても良いと考えている。
- ・わらべの杜では地域との接点を持つため部屋を会議室として開放したこともある。

⑤ 買い物支援について

○利用者代表 U原さん

- ・自分で買い物に行きたい。

○ゆりかご園 K池園長

- ・(買い物について) 他の施設に比べてルールや決まりごとは多いほうなのか

⇒東海施設長：他の施設より立地の問題もあるため制限的なものは多いと思う。買い物についても以前は自由に行き来できたが、外出先で利用者が倒れてしまいそのまま入院になってしまったことがあった。それ以降、外出時は職員が付き添うのが慣例となっている。買い物に限らず、何か事故などがあると、制限してそのままになってしまうことが多い。

○東海施設長

- ・週1回コンビニにバスを出してコンビニに買い物に行っている。現在、衣類の訪問販売を他事業所に打診し調整を行なっている。

⇒たちばなの里 K藤施設長

施設側の準備やフォローが必要だがイトーヨーカドーが定期的に来所して訪問販売を行なっている。担当の方を紹介してもらえる。お菓子類が中心、衣類なども販売している。金額も手ごろに抑えてくれる。

○柳澤

- ・他法人の障害者施設で（過疎化地域）は高齢化が進み買い物難民になっている地域の方々に、施設からバスを出して利用者と一緒に行き物に出かけるケースもある、沼代地区で需要があれば、地域交流の一環として利用者の方々と一緒に行き物外出を行なうのも良いかもしれない。

7 その他

会議宗終了後に推進員の方を寮内にお招きして、昼食の様子を見学して頂いています。

次回日程 令和8年2月6日（金） 11：00～13：00 昼食込みで。